

# 農家と消費者の出会い。 それが農業の未来を切り開く。

トマト、キャベツ、キュウリ、ホウレンソウ、ネギ、イチゴ…  
JAの農畜産物直売所には、その日に採れた新鮮な野菜や果物がずらりと並ぶ。

地産地消 ——。地元で採れたものをその地域の人に食べてもらうこと。これが、農家やJA共通の思い。  
「採れたて野菜ってこんなに美味しいんだ」「トマトだけでこんなに種類があるなんて」直売所には、新たな発見と喜びがいっぱい。地産地消の喜びはここからはじまる。多くの野菜や果物との出会いの場。それが直売所。

商品を選ぶ消費者と出荷する農家の交流。これも、大きな魅力。  
「消費者の声を直接聞くことができるので、もっと美味しいものを作りたい」と生産者。だから直売所には農家のこだわりが詰まった逸品が揃う。農家やJA職員からは食べ方なども提案。「地元のをより美味しく食べてほしい」すべてはその思いから。消費者と農家の出会いの場。それも直売所の姿。

農畜産物直売所は、多くの出会いを演出し、農業を未来へ引き継ぎ、新たな可能性も生みだす。  
農家と消費者がともに笑顔になり、地域全体に笑顔が広がる。そして地域が元気になること。それが私たちの願い。



**Q** 協同組合と株式会社はどこが違うの？

**A** 組合員が自ら運営し、共通の願いを実現することを目的にしていることです。

株式会社は、より多くの利潤を得ることを目指す組織です。株式会社の構成員は株を所有する株主であり、株をたくさん持っている人の思いや願いが優先されます。また、株式会社がより高い利潤をあげれば、株主はより高い配当を得ることができます。

他方で協同組合は、共通の願いを実現するために組合員が結集した組織です。出資した組合員自らが組織の事業を利用、一人一票で運営を行い、これを協同組合の三位一体性（出資、利用、参画）と言います。協同の利益は組合員に分配されるほか、組合員の暮らしをよりよいものにするための取り組みに活用され、好循環を生み出すことができます。



耕そう、大地と地域のみらい。

JAグループ群馬